

## 助成事業実施報告書

団体名 防災推進の街づくり仲間の会

代表者・役職名 氏名 荒川 隆二

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

地域内防災会設立サポートプロジェクト

## 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

東日本大震災以降、平成 25 年 1 月に国分寺市西恋ヶ窪 2・3・4 丁目及び日吉町 1・4 町目の一部地域にて防災会設立に向けての会がスタートし、現在講演会、学習会等を通じて啓蒙活動を実施している。会員数は令和 2 年 1 月現在 102 名である。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

平成の時代は、阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災、熊本地震等の大きな地震が発生し、被災地は大変な被害を受け、現在も復興途上にある。このように、いつ、どこで大きな災害が発生するか分からない時に、自分たちの住んでいる地域でも、出来る準備する事が重要な時代となった。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

主な活動は、①定例会議の毎月開催、②講演会の開催、③避難訓練の実施、④防災研修会の実施、⑤国分寺市地区防災センター(第五小学校、第九小学校)との連携、⑥国分寺市主催の防災関連行事への参加及び支援、⑦大きな災害が発生した際に、生活用水として活用できる市所有の井戸における井戸端会議の開催。

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

昨年は台風 19 号により各地で大きな被害が発生いたしました。国分寺市においても市内の小・中学校を中心に避難所が開設され、かつてない程の市民が避難いたしました。そのタイミングで 12 月に防災科学技術研究所の水・土砂防災研究部門の主幹研究員をお招きして水災・土砂災害の講演会を開催いたしました。市長も途中から参加され、台風 19 号の市の対応等についてお話しされ、参加者から大変良かったとの評価を頂きました。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

国分寺市では 14 の地域が市と協定を締結し、市と連携を取りながら地域住民の安心と安全に取り組んでおります。私たちの住む地域では市と協定が出来ていない地域もあり、継続した啓蒙活動や実践活動が必要ですが、春先に発生した新型コロナウイルスの影響により、活動が制限されております。新型コロナウイルスに最善の注意を払いながら、出来る範囲での活動をスタート一同今後も取り組んでまいります。

## 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



# ゲリラ豪雨！ 土砂災害！

## 防災講演会

### 集中豪雨のメカニズムと 都市防災への日頃の備え

日時：**令和元年 12月8日(日)**

14:00～16:00 (13:30 開場)

会場：東京都立多摩図書館セミナールーム I

国分寺市泉町 2-2-26 西国分寺駅徒歩 7 分

参加費：無料 (直接会場にお越しください)

定員：100 名



講師：大東 忠保 氏

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

水・土砂防災研究部門 主幹研究員 (博士 (理学))

九州大学を卒業後、名古屋大学大学院にて博士課程を修了し、その後トロント大学、名古屋大学、マギル大学、京都大学で地球環境科学等を研究し 2018 年より防災科学技術研究所の水・土砂防災研究部門主幹研究員として気象学を専門に活躍されております。

主催：防災推進の街づくり仲間の会 問合せ：090-1451-6323 (荒川)

協力：特定非営利活動法人 国分寺市にふるさとをつくる会

助成：真如苑助成事業